

差別問題研修
公開講演会

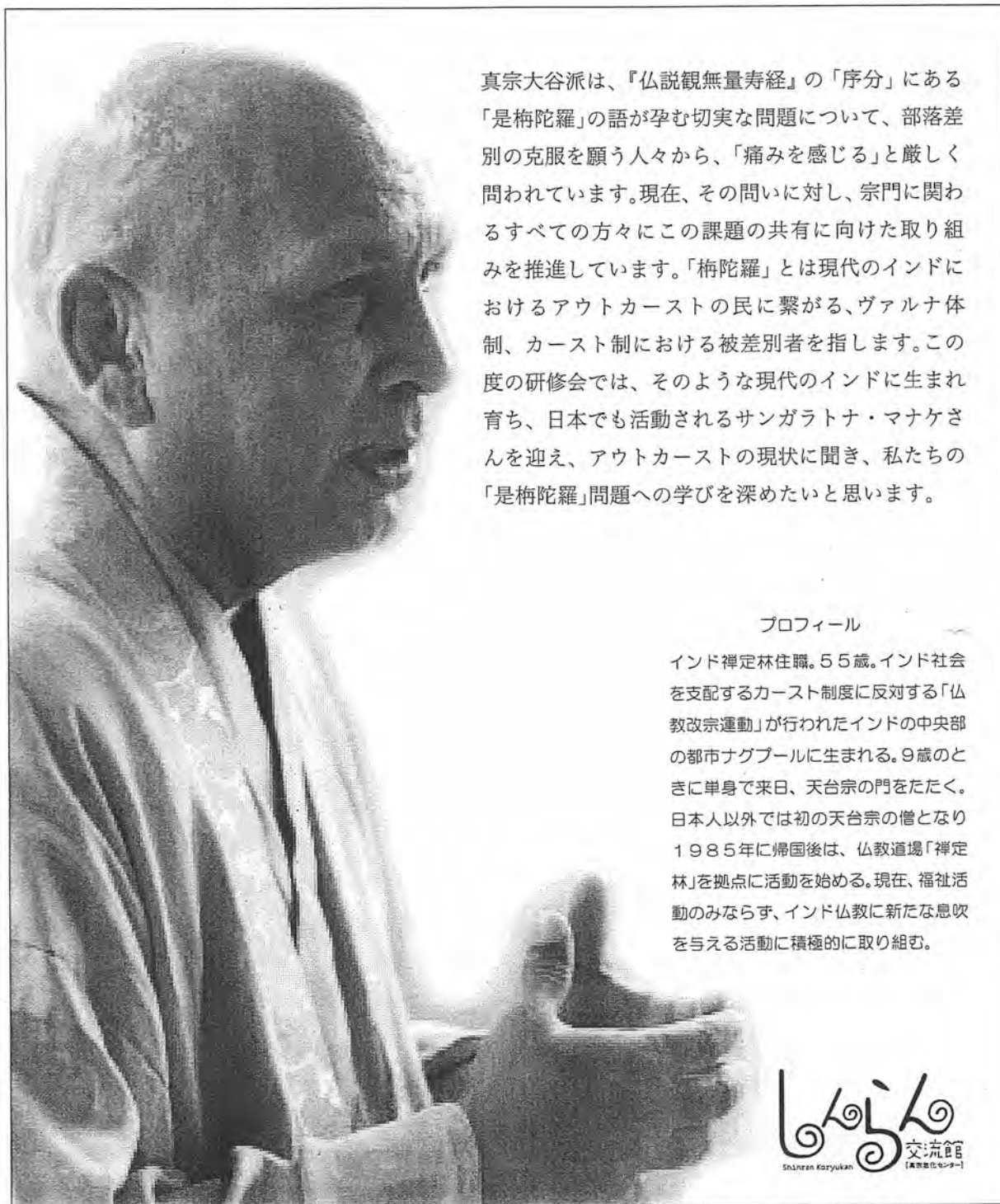
「インドと日本の架け橋として」

現代インドのアウトカーストへの差別に学ぶ

2017年 **11**月**30**日(木) 15:00~17:00

講師 **サンガラトナ・マナケ**氏

会場 **しんらん交流館 大谷ホール**



真宗大谷派は、『仏説観無量寿経』の「序分」にある「是梅陀羅」の語が孕む切実な問題について、部落差別の克服を願う人々から、「痛みを感じる」と厳しく問われています。現在、その問いに対し、宗門に関わるすべての方々にこの課題の共有に向けた取り組みを推進しています。「梅陀羅」とは現代のインドにおけるアウトカーストの民に繋がる、ヴァルナ体制、カースト制における被差別者を指します。この度の研修会では、そのような現代のインドに生まれ育ち、日本でも活動されるサンガラトナ・マナケさんを迎え、アウトカーストの現状に聞き、私たちの「是梅陀羅」問題への学びを深めたいと思います。

プロフィール

インド禅定林住職。55歳。インド社会を支配するカースト制度に反対する「仏教改宗運動」が行われたインドの中央部の都市ナグプールに生まれる。9歳のときに単身で来日、天台宗の門をたたく。日本人以外では初の天台宗の僧となり1985年に帰国後は、仏教道場「禅定林」を拠点に活動を始める。現在、福祉活動のみならず、インド仏教に新たな息吹を与える活動に積極的に取り組む。

しんらん
交流館
Shinren Kaizokan
【東京福祉センター】